「リハイム※」で叶えた、親子三世代それぞれが、それぞれに嬉しい住まい

長泉町内の分譲マンションにお住まいだったOさまご一家。ご長男が小学校に上がるタイミングで、築35年のパルフェにお住まいだった奥さまのご両親と同居するために、グランツーユーに建て替えました。ハイムから、再びハイムへ。そんなハイムへの信頼の証「リハイム」で実現した、ご夫妻にも、子どもたちにも、そしてご両親にも、それぞれに嬉しい二世帯住宅をご紹介します。

※リハイム：長年セキスイハイムにお住まいの方に、最新機能でさらに快適性が高まったハイムへ建て替えていただくこと

お客様のインタビュー動画はこちら！

駿東郡長泉町Oさま邸
グランツーユーV
ご家族構成：ご主人・奥さま・ご長男・ご長女・お義父さま・お義母さま
営業担当：大川 信彦

外観ポイント

美しい弧を描くボウウインドウや上部をアーチにした玄関ポーチ、ナチュラルなイメージのツートンカラーのタイル外壁などが、木質系のグランツーユーならではの優美な魅力をいっそう引き立てている。ちなみにタイルの色選びについてはご夫妻が何度もハイムの分譲地に足を運び、昼間・夕方、晴天・雨天など多様なシチュエーションでの「実際の見え方」を何度も確認して決めたという

1ご両親はもちろんご夫妻にとっても、心身ともにくつろげる居場所となっている1階リビング。ナチュラルカラーで明るい雰囲気としつつ、壁クロスや調度品にグレーを採用してDKとの統一感を持たせている 2Oさまご一家と担当スタッフ。写真左がベテラン営業の大川信彦、右はお客さま邸はもとより展示場の設計デザインも数多く手がけるデザインセンターの船木正一

3外に向かって美しい弧を描くボウウインドウ。ダイニングセットを設置し、キッチンと横並びにレイアウトしたことで、配膳もスムーズに。インテリアはホワイト×グレーを基調色として洗練された大人の空間に 4芝生の上でのご家族ふれあいの1コマ。緑の芝生にナチュラルカラーのタイル外壁がよく映える

建て替えもやっぱり地震に強いハイム

Oさまご夫妻は共働きで忙しく、子どもたちを奥さまのご両親に預けることがたびたびあり、今後もご両親のサポートは欠かせない状況だったそうです。

一方のご両親は築35年のパルフェを、より安心で快適な終の棲家とするべく、リフォームか平屋への建て替えかで検討中だったそう。但し、建築会社については、長年のハイムオーナー生活から「地震に強いハイム」への信頼は厚く、「建て替えもやっぱりハイムで」と決めていたと言います。

そして相談を受けた営業担当の大川は、引き続きOさまご夫妻がご両親のサポートを受けやすいよう、いっそのことリハイムで二世帯住宅に建て替えて同居することを提案。ご主人も「もともとハイム＝地震に強い家というイメージは持っていましたし、ハイムのタイル外壁も美しくて気に入っていた」とのことで、ハイムでの建て替えにはまったく異論はなかったそうです。

また、木質系のグランツーユーについても、2×6工法による優れた耐震・気密・断熱性をご夫妻揃って高く評価。鉄骨系のご実家と比べて奥さまは「やはり木の家らしいあたたかみを感じます

5 2階LDK。壁のブルーやダイニングチェアのオレンジにはビビッド過ぎないアースカラーをチョイス。木目のキッチン扉も相まって、お二人のセンスの良さを物語る北欧テイストに満ちた空間に 6 壁一面にエコカラットを採用してインテリア性と快適性を高めた玄関ホール。写真左手は内部をシューズクロークとし、ゲストとは異なる動線を確保したファミリー玄関 7 キッチン横に設置した和室は、客間として、また子どもたちの遊び場として活躍する多目的空間。お母さまのご要望で「椅子感覚でラクに腰かけられる」小上がりとした

ね。木質系に決めて良かったなと思っています」と微笑みます。

一つ屋根の下、年代の異なる家族が同居するからこそ間取りの工夫はもちろん、「最新設備の搭載は必至」と実感

ご自身も二世帯住宅で育ったというご主人は、奥さまのご両親との同居も「家族みんなで暮らせることが嬉しかった」と、奥さま同様乗り気だったとか。そんなご主人は「せっかく〝家族同士で住む〟のだから、いわゆる完全二世帯住宅というのは選択肢になかった」。そのため設計担当の船木には、帰宅した家族が〝一つの家族〟としてふれあえる間取りや動線をリクエストしたと言います。

それに対して船木からは多くのプランが提出され、何度か練り直しを図ったそうですが、中でも大きな変更ポイントのひとつが「玄関位置」でした。船木曰く「最初のプランでは建物間口方向の中央に玄関を配置し、各空間を東西に振り分けるというものでした。しかしOさまご一家の考え方や生活スタイルを知るにつけ、『両世帯が集まれる1階LDKを極力広くとるのがベスト』との結論に至り、玄関の位置を中央ではなく片側に寄せることとしました」。こうして両世帯の共用スペースとなる広々としたLDKが実現し、ご夫妻にとっても子どもたちにとっても一番のお気に入り空間となりました。

さて、実はOさまご夫妻は、この新居で〝さすがハイム〟という経験をしたそうです。「万一の停電に備えて蓄電池を搭載したのですが、ある夜、リビングでくつろいでいたら、ほんの一瞬、照明が消えて、またすぐに明るくなったんです。『あれ、もしかして…』と思って外を見たら、他の家は真っ暗でウチだけ明るかった。驚くと同時に『あー、これかぁ、なるほど!』と思いました。つまり停電して一瞬暗くなったものの、自動で蓄電池からの電気に切り替わったんです。これには〝さすがハイム〟と、ハイムの先進性のすごさを改めて実感しました」(ご主人)。

また、全館換気空調システム「空気工房プラス」の実力も日々実感されており、奥さまからは「猛暑下でも除湿機能だけでエアコンいらずでした。この快適さには両親も喜んでいますし、私から考えると単に『快適』というだけでなく、猛暑から両親を守ってくれる力強い味方です。実家はハイムとはいえ築35年の家でしたから、構造体に何ら問題はなくても、この快適と安心は先進設備でなくては得られません」と、説得力に満ちたお言葉をいただきました。

子どもたちも〝大好きなじぃじとばぁば〟と暮らせることが嬉しくて、毎朝、目が覚めると〝じぃじとばぁば〟の元へ直行!これには当のご両親も嬉しくて仕方のないご様子で、そんな光景を目にすることがご夫妻にとっても嬉しいとのこと。こうしてまさに〝幸せの好循環〟を満喫しているOさま一家なのでした。